

とよなか

全教豊中教職員組合

橋下思想調査はただちに中止せよ

憲法違反の「思想調査」

橋下大阪市長が全市職員を対象に実施した「労使関係に関する職員のアンケート調査に ついて」という調査は、職務とはまったく関係のない「組合活動」「特定の政治家を応援する活動」に関わったかなどを問うものです。それもなく、「行為」だけで参加した「か、誘われたか」や「誘った人」、また「場所」「時間」、組合活動・政治活動に 対する意見や認識、感 情など職員の内心、全 般に踏み込む憲法違 反の調査です。しかも 投票の支持や応援など 知人（誘った人）の名を聞き出す

「密告」を強制する悪 質さは許せません。

市長は職員に謝罪を

橋下市長は、回答を拒否すれば、処分対象 になる脅してしまし た。けれども、調査中 止を求め世論と運動 の広がりにおされて調 査担当の野村弁護士が 2月17日、調査の集計 作業の「凍結」を表明 しました。さらに22日、 大阪府労働委員会はこ の調査が不当労働行為 の調査組合法が禁じた 組合への支配介入の おそれがあるとして、 大阪市の調査の統行を 差し控えるよう異例の 勧告を出しました。こ のため、市は3月1日

トを3月中に廃棄する と表明しました。

このように職員の動 向や思想を監視するよ うな中で出される「教 育基本条例案」「職員 基本条例案」は危険極 まりないものです。 全教豊中は、19回の駅 頭宣伝で市民に訴えて きました。撤回に向 けて引き続き頑張りま す。

条例反対市民向け宣伝
3月9日(金) 18時豊中駅
3月15日(木) 18時岡町駅
3月22日(木) 18時曾根駅

教え子を再び戦場に送るな！

2012年度新執行部選出

2月10日、全教豊中第1
26回定期大会が開催され
ました。

三輪書記長がこの間の

「教育基本条例案」にかか
わる取り組みを中心に報告
し、2012年度の執行部
を選出する選挙を行いました。

意見交流では、北村さん
(北緑丘小)・荒西さん

(13中)・深田さん(桜塚
小)・平井さん(桜井谷東
小)・永野さん(1中)が
発言しました。

全教結成以来、執行部の
要として組合をリードして
きた池田委員長がこの大会
を最後に退任します。三輪
新委員長を先頭に、さらに
組合の団結を強め、情勢を
切り開いていきたいと思います。

2012年度役員・執行委員

委員長	三輪浩一 (桜塚小)
副委員長	木田好利子 (東泉丘小)
副委員長	西山美樹 (熊野田小)
書記長	廣嶋由美子 (箕輪小)
書記次長	藤木桂子 (寺内小)
書記次長	森田志乃 (1中)
会計	中野淳子 (15中)
執行委員	奥村登志美 (桜井谷東小)
執行委員	突田行生 (14中)
執行委員	長島知香 (箕輪小)
執行委員	目黒 衆 (北緑丘小)
執行委員	児玉光司 (東豊中小)
執行委員	武藤則子 (南丘小)
執行委員	朝輝千明 (熊野田小)
会計監査	鍵田素子 (豊島西小)
会計監査	村上めづる (豊島小)
会計監査	久保田百合 (3中)

青年フェスタに参加して

実践交流会では、2年生の担任の実践、3、4、5年と持ち上がりの担任実践を聞いた。児童の有り余っているエネルギーを、良い方向にもっていくことが大切だということを学んだ。行事に向かってクラスで取り組んだり、クラス全員で遊ぶ時間を設けたりするなど、全員でひとつのことに取り組んでいくことをされていた。

夕食交流会、2次会では、他市の先生方ともたくさん交流することができ、様々なつながりを持つことができた。そして様々な地域の学校の様子を知ることができた。また、それぞれの取り組みや悩みを話し合い、実のある交流会がもてた。時間があれば、もっといろいろ話せたのに・・・と思う。

2日目は、作文指導と理科実験の講座に参加した。作文指導では、子どもが書きたいことを、書きたいように、書きたいだけ書くことが大切で、そのためにほとんど制約を設けないと聞き、驚いた。それを繰り返すことによって、子どもたちは書くことが大好きになっていくというお話だった。今年度は難しいかもしれないが、来年度はぜひ取り組もうと強く思った。

理科実験では、面白い実験や道具を紹介していただいた。磁石の単元など、自分が今まさに取り組んでいるものや、大人でも驚くものが数多くあった。準備が簡単なものもあったので、ぜひ実験してみようと思った。

青年フェスタに参加してとてもよかった。来年もぜひ参加したい。



2 条例と私 (1)

神瀬 (こうのせ)

麻里子 (新千里東町)
日本航空訴訟原告団

必要のなかった解雇
19歳の12月に入社してから33年と1か月。客室乗務員として働いてきたJAL (日本航空) を一昨年の大晦日に解雇された。昨年1月19日に東京地裁に解雇撤回・原職復帰を求めて148名が提訴してから1年がたちました。

全国からのご支援のお蔭で裁判は異例のスピードで順調に進み、昨年9月30日の法廷にはJALのトップである稲盛会長が証人として出廷。「経営上、解雇は必要なかった。」と証言しました。

12月に結審し、3月2

9日にパイロット裁判、3月30日には、客室乗務員裁判の判決が言い渡されました。

もの言う者を排除

6回にわたる口頭弁論で、私たちの解雇が「もの言う者を排除する」計画的なものだったこと、「整理解雇に必要な4要件を全く満たしていない」解雇であったことが明らかにになりました。再生計画の中で、JALを再建するために必要であるとした「希望退職1500名」を超える1696名が退職したにもかかわらず、そして年

度目標が641億円営業利益が12月解雇の時点で1586億円に達していたのに、私たちの解雇は強行されたのです。

解雇問題と似ている

2 条例案

私は、地元・豊中に住みながら1年間裁判活動を行ってきました。その中でダブル選挙があり、「教育基本条例」「職員基本条例」がクローズアップされてきました。その中身を知れば知るほど、なんと私たちの解雇問題と似ているのだろうと、思うようになりました。

たたかう組合をつぶせ
JALを解雇されたのはパイロットと客室乗務員合わせて165名です。JALの中には、整備の職場もあれば営業や空港カウンター部門もありますが、1人も解雇者も出していません。なぜでしょうか？

安全運航を脅かす経営方針にはしっかりと意見を言い、スト権をかけてまで闘ってきたのは、パイロットと客室乗務員の職場にある労働組合だけだったからだと思いません。JAL経営の意思だけでなく、今どきストライキをするような組合は潰してしまえという財界の意図が明白です。(つづく)



黙っていいたら子どもも教育も守れない！

執行委員長退任にあたって（池田和幸）

フランスの教育思想家ルソーは今から二五〇年前、彼の著「エミール」の中で「人間は二度生まれる。一度目は存在するために、二度目は生きるために」と書きました。彼は思春期を「第二の誕生の時」と解いたのです。思春期とはラテン語で「発毛する」という意味だそうです。

なぜ子どもが荒れるのか？

誰もが全ての子ども達が豊かに成長・発達して欲しいと願っています。しかし、子ども達が豊かに成長・発達するためにはあまりにも障害が多すぎます。

●「詰め込み教育」と言われる教育内容

●一学級40人の学級定数

●多様化する高校教育と激化する受験競争

●病気になるってもなかなか休めない長時間過密労働が蔓延する職場の状況と

●評価・育成システムによる締め付け

●生活困難な家庭が増え続ける日本社会の状況「生

活保護受給者が205万人、非正規労働者が36%、1000万人を越す年収200万円以下で暮らす国民」外にもまだまだあるでしょうが、「第二の誕生」を安産で迎えるためにはあまりにも過酷な状況が子ども達を取り巻いているのではないのでしょうか。

なぜ組合が大事なのか？

私は執行委員長として十六年間組合の仕事をしてきました。同時に、この間、学級担任や生徒指導主事の仕事をしてきました。組合も大事だし、学校の仕事も大事だからです。

学校の仕事が大変なのは言うまでもありませんが、なぜ組合が大事なのでしょうか。私達教職員は子ども達を豊かに成長・発達させ

るために日々力を尽くしています。しかし、先に書いたように子ども達が豊かに成長・発達するためにはあまりにも障害が多すぎます。

これらの障害を取り除くために力を発揮しなければならぬのが教職員組合の大事な役割です。黙っていては子どもも教育も守れません。そして、私達が安心して日々の学校の仕事に専念しながら、子ども達の豊かな成長・発達を阻害している様々な問題を解決していくためには政府や大阪府や教育委員会と折衝や交渉をしたり、専ら組合の仕事に専念する職員（組合専従）を自前でつくることも必要です。子ども達の豊かな成長・発達のためにぜひ組合に入って共に力を合わせて橋下大阪維新の会の策動を打ち破りましょう！

私達教職員は、この第二の誕生に向かう子ども達、あるいは第二の誕生の真っ只中にある子ども達に毎日毎日向き合っています。子ども達の「第二の誕生」を難産にしないために私達教職員が力をかしてあげられ